害し、200人以上を拉致 ル市民ら約1200人を殺 もっと複雑である。 れる。しかし、パレスチナ した。この急襲作戦はイス 昨年10月の奇襲でイスラエ スラム主義組織ハマスは、 ガザを実効支配してきたイ 自治区ガザにおける戦闘は 自らの意志で戦争を止めら 家であり、独立主権国家は 非国家主体でありながら 戦争の主体は普通なら国

山内

富士通FSC特別顧問

事国家スパルタの王アギス をどこまで自覚して奇襲に 3万人を超える死者を出す 2月末までにガザ住民らに 打って出たのか。古代の軍 悲惨な事態となった。 ハマスはガザの統治責任 を披瀝していた。

統治されるべきかを認識す な知識は「いかに統治し、 2世でさえ、いちばん大事 ることだ」という政治哲学 河『坐臥記』)。 同じで、小なれば刑罰、大

ラエルの報復攻撃を招き、

えずに攻撃を仕掛けた」な れほどの惨事になるとは考 ガザ住民の間では、「こ 道義の両面で「亡国の兵」いまやガザの戦闘は政治と

ハマスとイスラエルは互

「権謀の兵」に出たが、いに復讐と刑罰の念から

るわけではない。 主義組織を自負していなが スの方も、パレスチナ民族 政治的責任が不問に付され ら住民に重い犠牲を強いた

ンのヒズボラ、シリアのイ 装闘争派でもあり、レバノ ハマスはイスラム主義武

江戸時代のある儒学者の

犠牲の責任 ハマスにも

どとハマスへの批判が公然 えているだろう。 %の住民がハマスの急襲を ザ地区の世論調査では、37 と聞かれ始めた。12月のガ 批判した。いまはもっと増 は未曽有の民間人死傷者を ァまで追い詰め、21世紀で に変質したのではないか。 住民を南部境界付近のラフ 出した。苛烈な軍事作戦は イスラエル軍は、ガザの

言によれば、刑罰と征戦は

に違いない。ただし、ハマ

米国とイスラエルは

貫

歴史の厳しい審判を受ける る向きもある。 ラン革命防衛隊系諸派、イ ルの陣地戦で貢献したと見 包囲網の一角として、イラ 国家主体によるイスラエル エメンのフーシ派などの非 ンによる反米・反イスラエ

的だ。彼らは本来のイスラ しまったからだ。 は、たとえようもなく悲劇 なくされたガザ住民の苦境 的な報復を辞さない。 及び腰だが、イランの支援 ル対イラン」という、異質 でなく、「米国・イスラエ するハマスなどへの機動戦 エル・パレスチナ問題だけ してイランとの直接対決に な国際対立の手駒にされて このはざまで犠牲を余儀

クライナ戦争とともに、米 ジャーナリストのトーマス ・フリードマン氏が言う 核心的象徴となった。 「壮大な地政学的争い」の しかも、ガザの戦闘はウ へ 2面に続く

面の続き

的協力に進む好機をハマス ではロシアに屈服しかねな ラエルの同盟国の援助なし の軍事支援なしにウクライ ルとの競争的共存から友好 クライナも、米国などイス ナ戦争を継続できない。ウ につぶされた。 した東アラブは、イスラエ 。サウジアラピアを軸と ロシアはもはや、イラン

シアとイランでは違う。 アラピアとの関係性は、 ある。イスラエルやサウジ 多く、OPEC(石油輸出 ライナ戦争とシリア内戦に 国機構) プラスの一員でも ロシアはユダヤ人の人口が おける最大の同盟国だが、 ロシアとイランは、ウク

> 東国際関係史研究」。 中東調査会常任理事。主著「中 どを経て現職。東大名誉教授。 まれ。カイロ大客員助教授、 入中東地域研究センター長な ハーバード大客員研究員、東 山内昌之氏 1947年生

の比重は同等ではない。 ロシアと非国家主体ハマス 複雑な利害構造の中で、 イランにとっても、大国

> 競争的共存の枠組みに、ハ 要がある。同時に、サウジ という先人の知恵に戻る必 た1993年のオスロ合意 込まねばならない。 マスを排除したガザ・ヨル アラピアを軸とした中東の ダン川西岸の2地域を組み

強いるハマスのやり方では 確立は、ガザ住民に犠牲を ガザの自決権と生存権の

府の他にない。

るのは、現実的には自治政 を忘れず」とも言う。アッ 際的に信託される資格があ ハマスの後にガザ統治を国 にテロをしたわけでない。 パス氏らは、ハマスのよう

イスラエルのネタニヤフ だが、「老いたる馬は道

役者だったラピン首相やペ 首相は、2国家解決案の立

レス外相の遺志に背いてこ 上のユダヤ系市民がパレス む8割の議員の賛成で、パ どでネタニヤフ氏や連立極 もが知っている。総選挙な させる道筋を、理屈では誰 戦に応じないだろう。 する国会決議が採択され け入れさせることだ。 穏健派に組閣させ、2国家 押し付けられることに反対 レスチナ国家樹立を外から 右・宗教右派を敗北させて た。世論調査でも、60%以 解決案の必要性を国民に受 だが、

2月には野党を含 イスラエルに攻撃をやめ

るふしがある。トランプ前 との戦闘を政治利用してい の案を確信的に妨害し、西 ある11月の米大統領選挙を フ氏は、保身のためハマス 心を捨てていない。 岸の入植地を増大させる野 見届けるまで、本格的な休 大統領が復帰する可能性が てもおかしくないネタニヤ 汚職容疑でいつ逮捕され かけることが不可欠だ。 直しを示唆しながら圧力を 効な方策はない。パイデン すれば、さしあたりパイデ は、対イスラエル援助の見 国家解決案をのませるに 氏がイスラエルに休戦と2 ン米大統領に頼る以外に有 家解決案に期待をつなぐと それでも国際社会が2国

チナ国家を拒否した。 るイスラエルの入植地拡大 は終わらない。 際限なく繰り返される悲運 れば、暴力とテロの連鎖が る占領と、西岸地域に対す ガザで半恒久的な外国によ ましだ、と言い切った。 公正なキリスト教徒よりも ムスリムの暴政家のほうが 者ワンシャリースィーは、 福になれるのだろうか。 連の管理を受け入れれば幸 を許してよいのか。そうな ムスリムの土地であるなら アラブ諸国の共同管理や国 解できるが、イスラエルや 治政府を嫌悪する感情も理 自治政府を嫌うあまり、 16世紀のモロッコの法学 ガザ住民がパレスチナ自

り、思慮ではない」とある。 正しいとはいえない。 しかし、この指摘は決して 「人間のいとなみは運であ あるギリシャ古典には

ニューズに掲載予定です 英文は金曜日のジャパン・

2国家案

2国家解決案は、90年代

ザのために一肌脱ぐ国は、 とても小さく資源もないガ からも現れていない。それ るには何をなすべきか。 牲を出し続ける戦闘を止め では、ガザ住民に多大な犠 日など「自由民主国家群」 民主国家群」からも、米欧 ロシアや中国など「独裁非 決して果たされない。 のパレスチナとイスラエル

立とイスラエルとの共存に よる2国家解決案をうたっ まず、パレスチナ国家樹 ある。今や人々は、「騏驎 政府腐敗の責任はある。 ばかりにアッパス氏に厳し も老いては疑馬に劣る」と ッパス議長はその功労者で の指導者のぎりぎりの妥協 い。確かに、悪評高い自治 自治政府のマフムード・ア で構想された。パレスチナ